



出前講座報告書



福島県立医科大学
性差医療センター
災害医療総合学習センター
医学部公衆衛生学講座

平成27年7月29日 福島市保健福祉センター



テーマ

「妊娠期からのパパママ対象の育児支援」



今回の研修でご紹介したオーストラリアから輸入した育児支援プログラムは、妊娠期のカップルを対象にして、お互いの気持ちを理解するきっかけづくりをすることを目的としています。父親の育児中の母親への共感が深まり、母親の産後うつを予防します。

体験の様子

参加者はパパ役とママ役に分かれて、二つのアクティビティを体験しました。

- ① 妊娠中から心配な育児のことを、パパママ別に答えた後で、その違いについての話し合いです。
- ② ママが育児で大変な日のシナリオについて、パパが帰宅する時どうすれば良いかについての話し合い。



講師紹介



福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
助手 石井 佳世子先生

平成5年聖路加看護大学看護学部卒業。平成18年聖路加看護大学大学院修士課程（看護学）修了。聖路加国際病院勤務、横浜市立港湾病院勤務、福島県立医科大学看護学部勤務を経て、平成25年より福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター助手として妊産婦調査を担当している。医学部公衆衛生学講座大学院生。専門領域は小児看護学、母性看護。

グループワーク



グループ発表

どのグループも学んだこととして、妊娠期のカップルが相手の気持ちが違うことを認識して、相手を思いやり話し合う、そして特に、言葉で伝えることの大切さを強調していました。今後の対策については、体験したプログラムのプレママパパへの導入や、訪問事業での一部資料の活用も提示されました。

「パパもママも心配はあると思うが、仕事や趣味を続けることを快く思われないかなど、パパならではの心配もあった」

「パパもママもそれぞれ心配していることはちゃんと口に出さないと本当に共感できない」

「現在、実施しているプレママパパ教室に今日の手法の一部取り入れる事ができそう」

アンケート集計結果

参加者は36名、アンケート回収は35名でした。

評価項目	そう思う
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	100%
時間配分は適切だった	91%
進行は適切だった	97%
体験したプログラムについて	
プログラムの流れについて理解できた	97%
自分達で行いたいと思う	79%
今後の保健活動に役立つと思う	97%

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計



復習ポイント

- ・妊娠期からの育児支援の意義は？
- ・共感セッションの目的は？
- ・共感セッションの流れは？
- ・はじめての子育ての支援のポイントは？

編集後記

講義らしい話は10分位だけで、具体的な保健支援方法を参加者に体験してもらおう新しい試みをしました。このような体験型の学習を企画することが最近は多くなりました。人は受け身で聞くだけでなく、体験することにより学ぶ量がグンと増えることを実感しています。特に大学の講義だと、いくら熱心に話しても、学生は寝るだけです。自分もそうでした。（後藤）



出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。